

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。新年に当たりご挨拶申し上げます。
旧年中は、当法人の賛助会員の皆様をはじめ、多くの関係各位の皆様に、ご支援ご協力を賜り誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

さて、日本動産鑑定も昨年10月をもちまして設立から満3年を経過させていただきましたが、今年からいよいよ真価を問われる年を迎えることとなりました。一方、昨今の低迷する日本経済の中にあつて、経済の中心を担う中小企業経営にとり最も望まれることは、安定した資金供給、金利水準もさることながら、いかに売上の確保を図るかが最大の急務となっております。その事態を踏まえて、動産評価業務が資金調達のみならず商流の支援に繋がるのが、企業経営の根幹に大きく役立つことがまさに証明される年でもあると思っております。

ABL全般の話として申し上げれば、動産や売掛債権を担保とした融資が次第に注目を増してきたことは間違いありません。しかし、このことを金融機関の目線でとらえた場合には、まだまだ目的が融資残高の増加で、ファイナンスにほかならないという見方も一方で存在しています。しかし、ソリューションとしての考え方として捉えると全く別の見方となり、動産評価は企業の実態把握であり、動産の流通価格、処分価格がわかるだけでなく、企業のビジネスモデルまで把握できる点であります。動産を評価するには、商流を理解することが基本であり、商流がわかれば物の価値が見えてきます。つまり、動産評価とビジネスマッチングは一体であり、動産評価こそが金融円滑化を推進する上でのリレーションシップバンキングの醍醐味でもあります。このことから昨年3月には、(株)リマーケット・エージェンシーを設立いたしました。業務の概要としては、1つ目が、新流通市場である「ReMarket」の運用事業として、商品在庫の処分、換価、販路の開拓を支援。2つ目として、動産総合保険の募集と損害保険業務全般の募集を業務とする損害保険代理店事業の推進。3つ目が、動産情報サービス事業の展開。となっております。特に全国の地域金融機関を中心として昨年10月より、ビジネスマッチングの支援が急速に高まっており、協定書の締結と準備中の金融機関は併せて15行を超えるところまでまいりました。

日本動産鑑定は、企業の前向きな活動を積極的に引き出すための金融機能の一つとしてお役に立つべく、動産評価（目利き力の向上）の普及と活用に今年度も努めてまいりますので、関連会社共々よろしくお祈り申し上げます。

最後になりましたが、平成23年度が賛助会員の皆様と関係各位の皆様にとりまして、良い年でありますようお願い申し上げます。私の新年の挨拶とさせていただきます。

NPO法人 日本動産鑑定
理事長 久保田 清